

「しまなび」プログラムにおけるコーディネーター（地域住民）を用いた学びの仕組みの開発（その2）

研究期間 平成28年度

研究者名 特任教授 中 島 洋

I はじめに

長崎県立大学では、「しま」を佐世保校、シーボルト校に次ぐ第3のキャンパスとして位置づけ、「しま」での実践的な体験学習を全学的に導入し、グローバルな視点を持つとともに、地域課題に主体的に取り組むことができるグローバル人材の育成を図るため、学生の課題探求能力や問題解決力を涵養する教育プログラム（「しまなび」プログラム）を設け、地域を学ぶ実践的な体験学習等を実施し、平成29年度に4年目を迎えようとしている。

本プログラムは、PBL（project based learning 課題解決型学習法）学習法で展開され、主体的・実践的な学び（AL：アクティブラーニング）が基本であり、積極的な姿勢が求められる授業である。「しま」とのやりとりも学生自らが自主的・積極的に行うことになっているが、「しま」からの助言・支援を受け、より「しま」の実態に即した計画が作成できるよう、各「しま」にコーディネーターを設置している。

II 研究内容

「しま」のコーディネーターは、学生からの相談に応じ、助言・支援を行っているが、相互のやり取りのスムーズな展開を支援し計画に反映させるため、学生とコーディネーターとの意思疎通ができる「学びの仕組み（体制）」をとしての学習支援システム（名称 manabie）を導入している。

学習支援システム（manabie）は、平成27年度の2回目からの「しまなび」プログラムに導入している。

学生は、学習支援システム（manabie）を通じて計画を作成していくが、相互にとってスムーズな展開を行うためには、学生とコーディネーターとのやりとりにおける種々の課題を把握、整理し、学習支援システム（manabie）上に構築することが必要であり、毎年改善を図ってきたが、学生及びコーディネーターが活用しやすいシステムの構築は早急に改善をはからなければならない大きな課題であった。

これらのことから、本研究の目的を次のこととした。

「学生とコーディネーターとが相互に進捗状況に応じて情報が共有できる manabie の構築」とし、

特に、コーディネーターから見て学生の動きが把握できる manabie の構築に留意した。

Ⅲ 学生とコーディネーターとの間に必要な情報は次のようにまとめられる

1 学生からコーディネーターへの問い合わせする主な情報

(1) フィールドワーク基礎計画（テーマ、到達目標、達成方法）作成時

- ① 「しま」について分からないこと、知りたいこと、聞きたいこと
- ② 基礎計画（テーマ、到達目標、達成方法）の妥当性、実現性

(2) フィールドワーク実施計画（具体策）作成時

- ① フィールドワーク実施場所の照会
- ② フィールドワークに必要な協力者の照会
- ③ フィールドワーク実施場所等の許諾の照会
- ④ フィールドワーク時の協力依頼

(3) フィールドワーク最終計画作成時

- ① 昼食場所の照会
- ② 交通機関利用の照会（経路、交通手段、ダイヤ 等）

2 コーディネーターから学生へ連絡する主な情報

（1）フィールドワーク基礎計画（テーマ、到達目標、達成方法）作成時

- ① 基礎計画（テーマ、到達目標、達成方法）の妥当性、実現性

（2）フィールドワーク実施計画（具体策）作成時

- ① フィールドワーク実施場所の訂正
- ② 行程の可否（訂正の指示）
- ③ フィールドワークに必要な協力者の指示、アポの催促
- ④ フィールドワーク実施場所等の許諾の指示、アポの催促
- ⑤ 発生する経費の指示
- ⑥ フィールドワーク時の協力依頼への対応

（3）フィールドワーク最終計画作成時

- ① 昼食場所の紹介
- ② 交通機関利用の訂正、指示（経路の可否、交通手段の可否 等）

IV 具体的な課題

学生、コーディネーターの両者から情報のやり取りについて、これまでの manabie に対する改善点平成 28 年 10～11 月に聴取し、具体的な課題を次の 7 点とした。

1. フィールドワークの計画時における「具体策」に関して、学生がコーディネーターに対応を依頼するかどうかの相互の把握
2. フィールドワークの計画時における「具体策」に対する学生の取り組み（進捗）状況の相互の把握
3. フィールドワークの計画時における「具体策」に対するコーディネ

- ーターの取り組み（進捗）状況の相互の把握
- 4.フィールドワークにおける協力者や許諾等に関する必要性についての相互の理解
 - 5.コーディネーターからのコメント（アドバイス）に対する学生の確認状況の相互の把握
 - 6.コーディネーターからのコメント（アドバイス）に対する学生の閲覧・返信状況の相互の把握
 7. フィールドワーク行程の地図上での相互の確認

V 改善策

1. フィールドワークの計画時における「具体策」に関して、学生がコーディネーターに対応を依頼するかどうかの相互の把握については、
具体策に関して、その対応をコーディネーターに依頼するか、どうかを選択し、依頼する場合は「依頼」をチェックすることとし、依頼する場合のみコーディネーターは対応する。（7ページ参照）とし、コーディネーターが判断できるようにした。
2. フィールドワークの計画時における「具体策」に対する学生の取り組み（進捗）状況の相互の把握については、
まだ取り組んでいない場合、取り組みの途中は、「S 未取組」と表示され、取り組みが完了した場合は、「S 取組完」と表示される。（6・7ページ参照）とし、捗状況を相互が把握できるようにした。
3. フィールドワークの計画時における「具体策」に対するコーディネーターの取り組み（進捗）状況の相互の把握については、
まだ対応していない場合、対応している最中は「C 未対応」と表示し、対応が完了した場合は、「C 対応完」と表示。コーディネーターとしての対応が必要ない場合、できない場合は「C 対応不要」と表示される。（6ページ参照）とし、進捗状況を相互が把握できるようにした。
- 4.フィールドワークにおける協力者や許諾等に関する必要性についての

相互の理解については、

コーディネーターが協力者・実施許可・料金について「要」・「不要」を指示し、「要」の場合は、実施月日、場所、内容などのアポを急いで確定させる。(7ページ参照) とし、必要性を相互が理解できるようにした

5. コーディネーターからのコメント（アドバイス）に対する学生の確認状況の相互の把握については、

具体策画面のコメント欄（下部欄）に表示されるコーディネーターから発信されたコメントのうち、学生が確認して（読んで）いない数が表示される。(6ページ参照) とし進捗状況を相互が把握できるようにした。

6. コーディネーターからのコメント（アドバイス）に対する学生の閲覧・信状況の相互の把握については、

グループのリーダー・副リーダー、この具体策の主担当・副担当の名前が、コメントの下に表示され、リーダー・副リーダー・主担当・副担当コメントを必ず読み、「既読」の表示にする。(7ページ参照) とし進捗状況を相互が把握できるようにした。

7. フィールドワーク行程の地図上での相互の確認については、

具体策の場所名、住所が自動的に取得でき、同時に表示し、行程を地図上で確認する。(7・8ページ参照) とし行程に不都合がないようことを相互が確認できるようにした。

グループ名 教員	対馬1 狹野先生	通常教室 中間発表教室	M105 M105	FW実施週	08月23日(火)~08月27日(土)	貸出機器	iPhoneアダプタ
メンバー	(リーダー) 下川 愛実、(副リーダー) 木下 紗代、(連絡係) 間 小雪、穴井 里樹、市河 萌紅子、井手 千寛、嵩下 友香、天水 鈴乃音、賈亀 葉奈、丸尾 千咲、宮崎 幸						

TOP > 第10回 まとめ報告

講義 第10回

講義実施：2016年06月21日 13時00分~14時30分

まとめ報告 提出のべ切は 2017年02月28日 12時00分 です。

グループ

第10回：manabie操作説明動画を見る

実施計画書

タイトル(題目)	Let's be つしまんちゅ!! ~対馬暮らし始めませんか~	
テーマ選定の理由(根拠)	①最終的に居住者を増やすために、何が必要か考えた結果、知名度を上げて、対馬を知ってもらおうことがまず第一だと考えたため。②しまに住むことよってのメリットとは何かを吟味した結果。	
テーマ	①郷土料理やツシマヤマメコ、美しい海、人の良さなどの 対馬固有の財産を調査し、全国にアピールする。②移住者を増やすために、本土に対する対馬の育児環境の 優位性と第三次産業の新しい職を研究、全国に発信する。	
しまにとっての意味	島の居住者を増やす。	
これまでの相違	1. 具体的な課題を解決するだけでなく、観光客ではなく居住者の増加に焦点を当てた所。 具体策に対して、 学生の取組状況 が表示される ・ S 取組完 ⇒ 取組完了の状態 ・ S 未取組 ⇒ 未取組の状態 ⇒ 解説1参照 具体策に対して、 コーディネーターの対応状況 が表示される ・ C 未対応 ⇒ 未対応の状態 ・ C 対応完 ⇒ 対応完了の状態 ・ C 対応不要 ⇒ 対応不要の状態 ⇒ 解説2参照	
1	1.1	1.1.1 内容 情報収集 手段 FW(実施)前 文献調査 対象 対馬市の観光資料 場所 大学図書館 主担当 井手 千寛 副担当 嵩下 友香 ⇒ 解説1参照 1.1.2 内容 情報収集 手段 FW(実施)前 インタビュー 対象 市役所の担当職員 場所 対馬市役所 主担当 嵩下 友香 副担当 下川 愛実、天水 鈴乃音 ⇒ 解説2参照 1.2 市役所、対馬観光協会に聞く。
2	2.1	2.1.1 内容 現在の育児環境について 手段 FW(実施)前 インタビュー 対象 保育所に子供を預けている保護者 場所 藤原保育所 主担当 木下 紗代 副担当 下川 愛実 ⇒ 解説3参照 2.1.2 内容 現在の育児環境についての情報収集 手段 FW(実施)前 インタビュー 対象 保育士

「編集」をクリックすると具体策の入力画面が表示される ⇒ **入手法①を参照**

「コメントアイコン」はコーディネータ・しま市町職員からのコメントに対し、学生がコメントを確認していない件数が表示される。コメントは具体策画面のコメント欄に表示される。 ⇒ **解説3参照**

「基礎計画書を修正」をクリックすると、基礎計画書の修正・変更ができる。 ⇒ **解説4参照**

「具体策の追加」をクリックすると、達成方法に対する具体策を追加できる。

「次へ」をクリックすると、作業分担の状態を確認・編集ができる。

中島先生

いよいよ残すところ、あと2回です。次の点に注意して「最終計画書」を作成して下さい。
 現地のフィールドワークで確実な行動が遂行できる「行程」を作成して下さい。(立往生・右往左往しない)
 そのため、現地における一つの行動(具体策)を全員が明確に予想でき、実行できる「行程」にして下さい。
 自分達では分からないことなどはコーディネーターに積極的に電話連絡し、解決して下さい。
 (TELは31ページに記載)
 また、協力者・許可者へのアポ、君たちに対する質問への回答、については確実に対応(実施)して下さい。

狹野先生 2016年07月14日 12時05分

次週が中間発表までの最後の授業です。FWの日程の詳細を決めてください。

キャンセル

次へ

具体策

具体策 達成方法1.1 ・インターネット

具体策の取組が完了したら、「取組完」に変更する。⇒ [解説7参照](#)

未取組

別の達成方法へ移動

内 容 情報収集

内容の詳細

詳細

例1) 収集する情報の名称は・・・○○○データ

例2) 調査する文献の名称は・・・書名▲▲

地図から入力をクリックし、場所名と住所情報を登録する。

⇒ [入力法②を参照](#)

⇒ [解説8参照](#)

具体策に対する役割分担を行う。役割分担がメンバーごとに表示。

⇒ [入力法④を参照](#)

⇒ [解説9参照](#)

その他

(程度)

地図から入力

選択して下さい。

TEL

主 担 当 井手 千寛 副 担 当 高下 友香 なし なし

別添資料

新規 選択

高校生向け アンケート調査 × 観光客向け アンケート調査 ×

住人向け 聞き取り調査 × 官公庁向け 聞き取り調査 ×

アンケート文案、聞き取り項目の作成と保存、作成したファイルを選択する。

⇒ [入力法③を参照](#)

⇒ [解説10参照](#)

作成・選択したファイル名が表示される。

コーディネータに協力者・実施許可・料金確認等を依頼したい場合にチェックを付ける。

⇒ [解説11参照](#)

コーディネーター手配 依頼

未対応

協 力 者 ⇒ (未定)

実 施 許 可 ⇒ (未定)

料 金 ⇒ (未定)

要・不要が表示される。最初は「未定」と表示される。要の場合は必ずアポを確定させること。

⇒ [解説12参照](#)

依頼に対してのコーディネーターの対応状態

コーディネーター・市町職員からのコメントが表示される。生徒からの返信も可能。相互の連絡に用いる。コメントを通じての連絡は非常に重要です。必ず読み返信すること。

⇒ [解説13参照](#)

コメント

コメントを入力して下さい。

2016年06月30日 22時57分

コーディネーターさんへの
問してもらえれば応えるこ
えてもらえればスムーズに

グループのリーダー・副リーダー・具体策の主担当・副担当が表示され、コメントを読んだ後、クリックし「既読」にする。

名前(未)→未読状態・名前(既)→既読状態

⇒ [解説14参照](#)

要返信

で質
に教

下川(未) 木下(未) 市河(既) 井手(未) 高下(未)

キャンセル

保存



グループ名 教員	対馬1 荻野先生	通常教室 中間発表教室	M105 M105	FW実施週	08月23日(火)~08月27日(土)	貸出機器	iPhoneアダプタ
メンバー	(リーダー) 下川 愛実、(副リーダー) 木下 紗代、(連絡係) 間 小雪、穴井 里樹、市河 萌紅子、井手 千寛、嵩下 友香、天水 鈴乃音、寶亀 葉奈、丸尾 千咲、宮崎 幸						

TOP > 第12回 まとめ報告

講義 第12回

講義実施：2016年07月05日 13時00分~14時30分

まとめ報告 提出のべ切は 2017年02月28日 12時00分 まで

行程作成

具体策を右の行程にドラッグ&ドロップし、行程を完成させて下さい。
 ※具体策の編集は、具体策の緑の枠内をクリックしてください。
 ※具体策の追加・削除は、画面の左下の「実施計画書の修正」から行います。

班分けを行なうグループは、「班作成」をクリックすると班分け画面へ移動
 ⇒ [入力法⑤を参照](#)
 ⇒ [解説15参照](#)

班作成

具体策	行程
	FW(実施)前
<div style="border: 1px solid red; padding: 2px;"> S未取組 未対応 3.2.1 起業したいと考える人にアピールする... 対馬に移住して起業した人の体験談を聞く・... </div>	<div style="border: 1px solid red; padding: 2px;"> S未取組 未対応 1.1.1 情報収集 インターネットを使って、現時点で行われて... </div>
<div style="border: 1px solid red; padding: 2px;"> S未取組 未対応 2.1.1 現在の育児環境についての情報収集 去年のフィールドワークで巖原地区を調査し... </div>	<div style="border: 1px solid red; padding: 2px;"> S未取組 未対応 3.1.1 市役所に事前に聞く 現在の第三次産業で、移住者の方に提供でき... </div>
<div style="border: 1px solid red; padding: 2px;"> S未取組 未対応 2.1.2 現在の育児環境についての情報収集 去年行われたフィールドワークとは違う地域... </div>	
<div style="border: 1px solid red; padding: 2px;"> S未取組 未対応 4.1.1 対馬の海のスポット 観光地になるような、綺麗な海のスポットを... </div>	
<div style="border: 1px solid red; padding: 2px;"> S未取組 未対応 4.1.3 郷土料理について いりやきの作り方を知る 願わくば民泊先で情... </div>	FW 1日目 8月23日 地図で確認
<div style="border: 1px solid red; padding: 2px;"> S未取組 未対応 4.2.1 いりやきのレシピ作成 島内の家庭をまわって、それぞれの家のいり... </div>	<div style="border: 1px solid red; padding: 2px;"> 「地図で確認」をクリックすると、工程にしたがいFWを実施する場所が地図上に表示される。 ⇒ 解説16参照 </div>
<div style="border: 1px solid red; padding: 2px;"> S未取組 未対応 4.1.2 郷土料理 いりやき以外の郷土料理を知る </div>	
	FW 2日目 8月24日 地図で確認
	具体策をドラッグ&ドロップして下さい
	FW 3日目 8月25日 地図で確認
	<div style="border: 1px solid red; padding: 2px;"> S未取組 未対応 2.2.1 対馬全体の育児環境の情報収集 </div>
	FW 4日目 8月26日 地図で確認
	【活動報告会】 対馬市役所 1階会議室
	FW 5日目 8月27日 地図で確認
	FW(実施)後

具体策を右側の行程エリアにドラッグ&ドロップで移動する。

関連資料

- [本時の実施内容](#)

次に進むと、宿泊とフェリーの設定

キャンセル

下書き保存

フェリー・宿泊へ

VI (コーディネーターへの) 改選された学習支援システムの周知・習熟

改善した学習支援システム (manabie) をコーディネーターが十分に習熟し、活用できるよう、

平成29年2月～3月に各しまを訪問し、コーディネーターへの周知、質疑応答、意見交換を行った。

また、改善した学習支援システム (manabie) に習熟するため、実際にシステムを運用する研修会 (デモンストレーション) を平成29年5月に開催し、コーディネーターが改善されたシステムを運用できるようにしたい。

VII おわりに

「しまなび」プログラムは、平成27年度は本格実施の第1回目であったため、学習支援システムは学生の運用に主眼をおいたものであったが、システム構築・開発上に時間の制限もあり、コーディネーター側に立った視点が不足し、運用上に問題点があった。

このため、平成27年度のフィールドワーク終了後に、コーディネーターが運用しやすい学習支援システムに重きをおいた改善を行い、平成28年度の「しまなび」プログラムに用いた。

しかし、学生、コーディネーターの両者の情報の共有に改善すべき点が残ったため、今回の研究を行った。

今年度の研究により、学生、コーディネーターの両者にとって運用しやすい「学びの仕組み」が出来つつあると考える。

今後は、再構築したシステムでの運用の検証を行い、さらにレベルアップした「学びの仕組み」を目指していきたい。